

心理学科 ディプロマ・ポリシー (DP)、カリキュラム・ポリシー (CP) 及びアセスメント・ポリシー

| DP | | CP 編成方針 | アセスメント・ポリシー | | |
|------------|---|--|--|--|--|
| 第一層 | A | 幅広い教養と専門的知識・技能を身に付けている。 | 卒業認定・学位授与の方針に示す質的水準の達成状況である学生の学修成果としての各学質・能力については、下表に定めるとおり、各授業科目の到達目標に対する学修者の到達度について実施されるDP観点別評価の結果を集約するとともに、本学が定める大学の学修マップに示す各種調査などを必要に応じて用いることによって、その修得状況を把握し可視化する。 | | |
| | B | 学びと研究の質を高めることができる思考力・判断力・表現力等を幅広く身に付けている。 | また、本学科の教育内容・活動については、把握・可視化した学修成果をふまえ、アセスメントマップに示す各種調査などを用いることで、多角的に検証する。 | | |
| | C | 地域社会及び国内外の諸課題の解決に主体的・創造的に参加・貢献することができる。 | その検証結果は、自己点検・評価活動やFD活動において、本学科の教育改革・改善に資するよう活用する。 | | |
| | D | 自己の成長と社会の発展のために、自律的に学び続ける態度を身に付けている。 | | | |
| | | | 学修成果を把握・可視化する方法 | 主な科目 | |
| 第二層 (共通科目) | A-1 | 幅広い学問領域の基本的な概念や理論を修得し、教養としての知識・技能を身に付けることで、社会現象を多面的に理解することができる。 | 主に人文科学、社会科学および自然科学の各分野を中心とし、学問の基本的な概念や理論を修得するための科目を、選択必修として1年次から配置する。 | 各科目における小テスト、レポート、定期テスト等によって、到達状況をDP観点別に評価した結果を集約し、学年別及び全学年を通して「知識・技能」の学修成果を測定する。 | 教養科目 |
| | B-1 | 学びや研究の基盤となる思考力・判断力・表現力を獲得し、幅広い領域に活用することができる。 | リテラシー領域を設け、学びや研究の基盤となる思考力・判断力・表現力を修得するための科目を、必修および選択必修として1年次および2年次を中心に配置する。 | 各科目における小テスト、レポート、定期テスト等によって、到達状況をDP観点別に評価した結果を集約し、学年別及び全学年を通して「思考力・判断力・表現力等」の学修成果を測定するとともに、外部検定試験や外部アセスメントテストの結果も活用する。 | 外国語 データリテラシー スタディスキル ヘルスリテラシー |
| | C-1 | 修得した学質・能力を主体的に活用し、多様な人々と協働しながら実際の課題に取り組み、創造的に課題解決に向かうことができる。 | 実習、演習、インターンシップ、ボランティアなどを中心とした、創造的に思考する力や他者と協働する力を修得するための基礎から発展への科目を、1年次から段階的に配置する。 | 各科目におけるグループワークや研究発表、実演等によって、到達状況をDP観点別に評価した結果を集約し、学年別及び全学年を通して「総合的な学修経験・創造性」の学修成果を測定する。 | ライブデザイン応用 |
| | D-1 | 社会的課題やそれに対する学習・研究を通して、我々の生き方の指針を深く考え、自律的に真実を探究し続けることができる。 | ライブデザイン領域を設け、生き方の指針および学び続ける態度を修得するための科目を、必修および選択必修として1年次および2年次を中心に配置する。 | 各科目における小テスト、レポート、定期テスト、研究発表等によって、到達状況をDP観点別に評価した結果を集約し、学年別及び全学年を通して「態度・志向性」の学修成果を測定する。 | キリスト教 ライブデザイン基礎 西南学院史 |
| 第二層 (専攻科目) | A-2 | 人間一般の心の機能について説明することができる。 | 「基礎専門に関する科目」や「応用専攻科目(認知領域)」等を中心に、認知心理学に関連する基礎から応用に至るまでの知識を修得するための科目を1年次から系統的・段階的に配置する。 | A-2 人間一般の心の機能に関する知識を養成する科目において、リアクションペーパー、小テスト、レポート、定期テスト等によって学修成果を評価する。 | 心理学概論 I 知覚・認知心理学 I |
| | A-3 | 人間の生涯にわたる成長や発達について説明することができる。 | 「基礎専門に関する科目」や「応用専攻科目(教育・発達領域)」等を中心に、教育心理学及び発達心理学に関連する基礎から応用に至るまでの知識を修得するための科目を1年次から系統的・段階的に配置する。 | A-3 人間の生涯にわたる成長や発達に関する知識を養成する科目において、リアクションペーパー、小テスト、レポート、定期テスト等によって学修成果を評価する。 | 発達心理学 I 教育心理学 |
| | A-4 | 日常場面や産業場面において、他者との関わりや状況の影響を受ける人間行動について説明することができる。 | 「基礎専門に関する科目」や「応用専攻科目(社会・産業領域)」等を中心に、社会心理学に関連する基礎から応用に至るまでの知識を修得するための科目を1年次から系統的・段階的に配置する。 | A-4 他者との関わりや状況の影響を受ける人間行動に関する知識を養成する科目において、リアクションペーパー、小テスト、レポート、定期テスト等によって学修成果を評価する。 | 社会・集団・家族心理学 I 産業・組織心理学 I |
| | A-5 | 心身の健康・ストレス、および心理的援助に関する基本について説明することができる。 | 「基礎専門に関する科目」や「応用専攻科目(臨床領域)」等を中心に、臨床心理学に関連する基礎から応用に至るまでの知識を修得するための科目を1年次から系統的・段階的に配置する。 | A-5 心身の健康・ストレス、および心理的援助に関する知識を養成する科目において、リアクションペーパー、小テスト、レポート、定期テスト等によって学修成果を評価する。 | 臨床心理学概論 健康・医療心理学 |
| | A-6 | 心理学の基礎的な手法である研究技法や測定技法、分析技法の知識を習得し説明することができる。 | 「研究法に関する科目」や「実験・実習に関する科目」等を中心に、心理学における基礎的な手法に関する知識と技能を身に付けるための科目を1年次及び2年次を中心に配置する。 | A-6 心理学の研究技法や測定技法、分析技法に関する知識・技能を養成する科目において、リアクションペーパー、小テスト、レポート、ワーク、定期テスト等によって学修成果を評価する。 | 心理学研究法各論 III |
| | A-7 | 実践場面や心理学的支援において必要となる、隣接する関連分野の知識を習得し説明することができる。 | 「応用専攻科目(臨床領域)」等を中心に、実践場面や臨床場面で必要となる基本的知識や技能を身に付けるための科目を1年次から配置する。 | A-7 実践場面や心理学的支援において必要となる、隣接する関連分野に関する知識・技能を養成する科目において、リアクションペーパー、小テスト、レポート、定期テスト等によって学修成果を評価する。 | 人体の構造と機能及び疾病 公認心理師の職責 |
| | B-2 | 心理学的な視点から、グローバルな事象について考察することができる。 | 「応用専攻科目(文化・環境領域)」等を中心に、文化や環境と人間の行動や心との影響過程について理解し、心理学的な視点から考察する能力を身に付けるための科目を1年次から系統的・段階的に配置する。 | B-2 心理学的な視点から、グローバルな事象について考察する思考力を養成する科目において、リアクションペーパーやケーススタディに応じた小テスト等を用い学修成果を評価する。 | 文化心理学 日本人の心理 |
| | B-3 | コミュニケーション能力およびカウンセリングマインドを身に付け、対人関係の支援や円滑な人間関係の構築・維持に活用することができる。 | 「応用専攻科目(臨床領域)」及び「実験・実習に関する科目」等を中心に、対人場面や心理学的支援において有効なコミュニケーション能力や心理学的技法を身に付けるための科目を2年次及び3年次を中心に配置する。 | B-3 コミュニケーション能力およびカウンセリングマインドを身に付ける科目において、リアクションペーパー、レポート、小テスト、等を用い学修成果を評価する。 | 心理学的支援法 心理的アセスメント |
| | B-4 | 身の回りの事象の中から心理学的な課題を発見し、課題解決に適切な研究計画を立案し研究を実施することができる。 | 「研究法に関する科目」や「実験・実習に関する科目」等を中心に、人間行動について科学的・客観的に思考・検証する上で必要な実践的知識と技能を身に付けるための科目を2年次及び3年次を中心に配置する。 | B-4 心理学的な課題を発見し、課題解決に適切な研究を計画、立案、実施することに関する思考力を養成する科目において、リアクションペーパー、ディスカッション、プレゼンテーション、実践的課題等により学修成果を評価する。 | 心理学実験 I 心理学調査実習 |
| | B-5 | 心理データを適切な統計手法により分析し、その結果を読み解いてわかりやすく人に伝えるよう表現できる。 | 「研究法に関する科目」や「実験・実習に関する科目」等を中心に、統計的な分析とプレゼンテーションに関する実践的知識と技能を身に付けるための科目を1年次から系統的・段階的に配置する。 | B-5 心理データの統計手法による分析、結果の解釈と伝達に関する思考力を養成する科目において、小テスト、レポート、定期テスト、実践的課題等によって学修成果を評価する。 | 心理統計法 I 心理統計法 II |
| | C-2 | 日常生活や身近な事象から発見した課題を、心理学的方法に基づいて科学的に検証し解決することができる。 | 「演習・卒業論文に関する科目」や「実験・実習に関する科目」等を中心に、身に付けた専門性を活かして実践的・機動的な課題解決を体験し実践力を身に付けるための科目を3年次及び4年次を中心に配置する。 | C-2 実践的・機動的な課題解決を体験し実践力を身に付ける科目において、グループワーク、研究の実施、レポート、研究報告書等によって総合的な学修経験・創造性についての学修成果を評価する。 | 消費者行動分析実習 演習 I (A)(B) 卒業研究A/B |
| | C-3 | 修得したコミュニケーション能力を、さまざまな実践場面で活用することができる。 | 「演習・卒業論文に関する科目」や「実験・実習に関する科目」等を中心に、身に付けた専門性を活かして実践的・機動的な対人場面や支援場面を体験し実践力を身に付けるための科目を3年次及び4年次を中心に配置する。 | C-3 実践的・機動的な対人場面や支援場面を体験し実践力を身に付けるための科目において、グループワーク、研究の実施、プレゼンテーション、ピアレビュー等によって総合的な学修経験・創造性についての学修成果を評価する。 | プレゼンテーション法 演習 II (A)(B) |
| | D-2 | 人間についての多面的理解を、自身や身の回りの人の心身の健康や幸福な人生のために役立てることができる。 | 「応用専攻科目」等を中心に、5領域にわたる幅広い領域の心理学を理解するための講義科目を1年次から系統的・段階的に配置する。 | D-2 各科目におけるレポートや研究発表等によって、到達状況をDP観点別に評価した結果を集約し、学年別及び全学年を通して「態度・志向性」の学修成果を把握・可視化する。 | スポーツ心理学 精神疾患とその治療 |
| D-3 | 的確な情報収集と分析に基づいた客観的な観点から自己の置かれた状況や社会的な現象を捉えようとする可以尝试。 | 「実験・実習に関する科目」等を中心に、課題解決型の実習科目を2年次から4年次にわたって配置する。 | D-3 情報収集と分析に基づく客観的な観点から状況や社会的な現象を捉えることにつながる科目において、レポート、研究実施、研究発表、研究報告書等によって学修成果を評価する。 | 心理学実験 II 心理学調査実習 | |
| D-4 | 心理学的支援に求められる基本的な知識と技術(傾聴、アセスメント)を身に付け、心の援助を必要とする人や社会に対して適切な支援をすることができる。 | 「心理演習」や「心理実習」等、心理学的支援に貢献できる実践力を身に付けるための臨床実践科目を3年次から4年次にわたって配置する。 | D-4 心理学的支援と関わる知識と技術の獲得および支援の実施と関わる科目において、ロールプレイ、レポート、現場実習の態度や行動、報告書等によって学修成果を評価する。 | 心理演習(面接) 心理実習 | |